

労組の意義を  
学生ら考える

県立大で講座

労働組合の役割や働くことについて学生らに考えてもらう連合寄付講座(連合福井主催)が二日、県立大福井キャンパス(永平寺



学生らに労働組合がなぜ必要か説く岡部謙治理事長(左)永平寺町の県立大福井キャンパスで

町松岡兼定島)で始まった。連合寄付講座の県内での開講は初めて。

講座は一月十五日までの水曜日に開かれ、全十二回。学生以外も聴講できる。初回は同

大の経済学部生や市民から三十五人が参加。連

合の関係団体、教育文化協会

(東京都)の岡

部謙治理事長

が、連合ができた

背景や組織の

概要、労働組合

法や労働基準法

の意義などを説

明した。

岡部理事長

は、今の日本で

非正規雇用が増

えていることな

どを挙げ「連合は『働くことを軸とする安心社会』を目指して取り組んでいる」と主張。「労働組合は社会の持続的発展に欠かせない

組織だ」と訴えた。二回目以降は連合福井や連合本部の関係者らが賃金体系や仕事と

育見、介護の両立など象の講義、試験がある。月五日には学生のみ対象の講義、試験がある。(林朋実)

2013年10月4日(金)  
福井新聞 9面

労働問題の現状

県立大生に紹介

連合福井寄付講座

連合福井の寄付講座

「働く」ということと労働

組合」が二日、永平寺町

の県立大福井キャンパス

で開講した。来年1月ま

で全13回開き、労働問題

の現状や労働組合の意義

を伝える。

連合福井が寄付講座を

開講するのは初めて。働

くことの意義や労働者の

権利を知ってもらう、若

者の早期離職改善につな

げる狙いもある。初回は

連合の関連団体「教育文

化協会」(本部東京)の



岡部謙治理事長が講師を務めた。写真。

岡部理事長は、国際労働機関(ILO)が19

44年に採択したフィラ

デルフィア宣言の「労働

は商品ではない」「一部

の貧困は全体の繁栄にと

って危険である」といっ

一節を紹介。「現在も正規、非正規社員の間

に労働条件格差が横たわ

るが、放置すれば国力低下

につながる。労働者全体

の生活底上げを目指すべ

きた」と強調した。